

令和 2 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田檜木郷		
事業所名	グループホームやまだ桜の郷 などしこ荘		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地1		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果確定日	令和3年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和3年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人としての尊厳」を守り、入居者様の個々の思いを大切にし一人ひとりのペースに合わせその人らしい生活が送れる様に家庭的で温かい雰囲気の中、生活の質・人生の質を高めれるように支援を行っています。コロナ禍の影響で慰問や施設行事など開催する事ができない状況ではあるが、ユニットごとの行事を行い、入居者様・ご家族様の満足を得れるように努めている。医療の協力機関との連携により、月2回の訪問診療、入居者様の状態や状況により24時間の電話相談対応により、健康管理に力を入れています。又、併設しているデイサービスでは、機能訓練時に使用する器具も充実しており、自由に行き来が可能であり個別の機能維持・継続などにも取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/ 事業所名		グループホームやまだ桜の郷なでしこ荘			
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念について玄関や事務所に掲示し常に意識できるような環境作りに取り組んでいる。また、新規採用・新任職員に対しても研修を行いミーティング時に理念の振り返りを行い継続して取り組む環境をつくっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で面会や慰問等を中止しており本年度は交流を図れていない。また、職場体験受け入れも中止している。 クリスマスイルミネーションは、地域の方々にも好評でした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学が希望される方にはパンフレットを、お渡しし認知症の方の理解を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で運営推進会議は当面中止いたしております。 R3.1より概ね2カ月に1回の運営推進会議を书面開催を予定。 利用者の現状・行事・運営を報告し、そこで出たご意見・要望を反映していきます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に実績やケアサービス等の取組みを報告、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みを行いミーティング等で研修を行い全職員が理解している。利用者の行為・行動を妨げない為の意識付けも行っている。玄関の施錠はもちろん言葉のかけ方にも気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を行わない為の研修時に虐待防止についても一緒に研修を行っている。普段から身体拘束や虐待はしないという意識をもっている。 ストレスをため込まないようコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で関連資料の配布・研修にて学べるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に利用者ご家族と面談を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当職員を設けてその都度、意見や相談を受けている。利用者またはご家族との会話の中からご意見を伺うこともあり、管理者ミーティング等で報告、改善に努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係性に努め、提案等については実現できるように一緒に考えるようにしている。ミーティングでは職員からの意見を出す機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様に施設長、管理者が主体となり業務改善を行い職員の管理上で把握しうる総合的意見をまとめ代表者へ提案することにより更なる環境・条件の整備に取り組むようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用において特に採用条件を設けることなく活動している。 職員が能力を発揮できるように担当業務を設定しミーティングまたは個別で意見交換を行い日々の業務に反映している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	教育に関しては、ミーティング時に社内勉強会を設け、身体拘束廃止や虐待等の人権について周知している。 また、入居者様への言葉遣いなど適宜伝達・指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、グループミーティング時に勉強会を取り入れている。又、参加できない職員には個別の指導と資料を配布している。 また外部研修については、その機会を職員に周知しつつ、参加を促すとともに、ケア資格取得のための資料提供や便宜を図るなど、職員を育てる取組みを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の影響で交流を図れていないが、一昨年同様にCM連絡会・地域密着型サービス連絡会等に参加し、他職種や他事業所とのネットワークづくりや交流を図り、有益な情報は職員に周知しサービスの質の向上を図っていきます。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人にあった入居の方法を考えている。ご家族とも連携を取り安心して過ごして頂けるように信頼関係の構築に努めている。またご本人の要望を必ずお聞きしプランに反映している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時ご家族の要望を伺い、本人の要望や行政の指示を踏まえた上で、ご家族と相談し、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の状況を把握し事前に来て頂くなどの必要な支援をしている。他のサービス事業所とも連携を図り必要に応じたサービスの対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活させて頂くという姿勢を大切にし、時には職員が利用者に頼ったり甘えたりして、何かをする時は相談するなどしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と電話にて連絡を取りケアプランの内容説明や要望等を確認し介護計画・サービスを提供している。 面会ができない状況でも電話にてコミュニケーションを取って頂いたりと取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会が難しいなか、絵葉書やお手紙を頂ける入居者様へは返信をするお手伝いをしたりして関係が途絶えることがないように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが隣になるような席を配慮している。レクリエーションや家事への参加により、利用者同士の会話が生まれ、孤独感を感じる事なく生活が出来るように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の情報提供や、本人及び家族の相談等、必要に応じて行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、時にはご家族からも希望を聞きプランに反映している。本人の言葉で確認が困難な場合はご家族と話し合い、本人にとって必要な支援を検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人、ご家族から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。これまでの暮らしの情報は生活するうえでヒントがあると考えるので、把握に努めている。また、新しく得た情報は随時追加して共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録日誌、看護記録を毎日つけ、職員が出勤時に目を通すことにより、利用者の日々変化する情報を把握できている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を常勤させ、現場の介護員・利用者・家族・医療関係者等の必要な関係者と、密に連絡が出来るように努め、それぞれの意見を踏まえた介護計画が作成できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌を記入することにより、職員に利用者の情報を共有させ、ケアプランの計画や実践に活用できている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスを活用し、機能訓練や、器具を使ったレクリエーション等、グループホームでは提供し難いサービスも提供できている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて花見やドライブなどの外出は中止とはなったが、クリスマスのイルミネーションや中庭・外周の景色を見て頂けるように散歩に誘い楽しんで頂く努力は行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2回、協力医療機関の往診があり、また、本人や家族が希望する医療機関への受診等、複数の医療機関への受診が可能となっている。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護職員・医機関の看護師には、24時間電話での対応をお願いしており、早期での受診や、事故対応ができるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、ご本人の状態を把握するとともに、安心できる入院生活が送れるよう、また早期の退院ができるよう、ご家族と入院先と緊密に情報交換するよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の想定は難しい話であるが、そのあり方について、入居時にご本人とご家族に説明を行っている。当施設は関係医療機関と連携していることや緊急時にはすぐに受け入れてもらえるようになっていることを伝えるている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、年に一回消防士、救命士による講習を受講しており、職員全員が救命技能を有することができるよう取り組んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、昼夜を問わず職員全員で防火訓練を実施している。その際、スプリンクラーの位置、避難経路を確認する等、利用者が安全に素早く避難できることを確認している。また、地域の協力により公共施設の使用も可能となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者一人ひとりに対し、「現在まで社会を支えてくださった方々」との畏敬の念を持ち、生活を共にする者という立場で接している。本人が最も居心地が良い環境となるよう、プライバシーの確保等、個別の対応を行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しの事でも選択肢を設けたり、目で見せて頂くなど自己決定できるよう、また希望が叶えられるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事や入浴には、時間的余裕を持たせており、また、日常のレクリエーション時には、利用者に何がしたいか希望をお聞きした上で実施するなど、本人のペースで生活できるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については、本人の行きつけの店を利用されたり、出張美容サービスを利用している。また日常の整髪用のブラシ・クンを洗面台に常備している。入浴時の更衣については、本人が選ばれた服に着替えて頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の広告を見て食べたものを伺ったり、今美味しいものやどのようにして食べたらいいかなど利用者と一緒に楽しみながら食事作りや片付けを行っている。季節を感じられる食事を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した食物を提供している。好き嫌いや食物アレルギーについても、事前に本人や家族から情報を集めており、代わりとなる料理を提供している。水分摂取は毎日の定量を提供し、記録しつつ職員が共有している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、基本的に自己で口腔ケアを行って頂いているが、個々の能力により一部介助を行っている。また義歯は外して頂き、職員が洗浄している。週に一回の歯科往診により細部の汚れを除去している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあったパットとトイレへの声掛けを行っている。出来るだけトイレで排泄し気持ちよく過ごして頂けるように支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防には、水分補給をこまめに行うとともに、体操や日程に合わせて散歩等、適度な運動を行っている。また医師からの指示がある利用者には薬を服用して頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ホームの入浴は週3回と設定しているが、時間に幅のある入浴に努めている。また、併設しているデイサービスの浴場を使用できることを周知しており、希望者には毎日入浴できるようにしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、個々に違うので、習慣に合わせて休んで頂いている。ゆっくりテレビを見て過ごされたり・読書を楽しまれているかたもおり、気持ちよく休まれるよう寝具や気温に気を付けている。日中もお部屋で自由に横になっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護記録に服薬内容を記録・保存しており、いつでも閲覧できるように努めている。服薬時も本人の飲み込みまで確認し飲み忘れのないようにしている。看護職員とも連携し状況の変化に対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などからアセスメントし、プランに添いながら得意な事なるべくして頂けるよう支援している。畑仕事・カラオケ等好まれている事は積極的に取り入れている。また、ドライブなどを楽しみにしていることを把握し出かける機会を大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭は常時開放しており畑作業や洗濯物の収納、散歩等思い思いに行動できるよう支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所保管としているが、本人の希望や能力により個人で保管している。事務所で保管している利用者も、希望があればすぐにお渡しできるようにしており、買い物など自由に使用できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は希望があれば、いつでも利用できるようしているが、電話に関しては頻度、時間帯によっては、後日に行って頂ける様本人と話し合い、家族の負担にならないよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外窓を大きくとることにより、日当たりも良く、四季の移り変わりを楽しめるようにしている。また、アロマを焚きことにより、不快な匂いを軽減させると共に、利用者によりリラックスして頂ける環境を提供している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や個人の歩行器の置き場所にも配慮している。歯磨きセットなどの置き場も随時検討し、安全な環境づくりに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には自宅で使用していた家具等を持って来られたり、写真や思い出の品を自由に飾るなど、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用する場所や物にはわかりやすく表示している。時間がかかっても出来ることは見守りながら行って頂いている。		